早稲田大学インクルーシブ教育学会
ニュースレター　2023 年（令和 5 年度）NO.6

大阪府立水都国際中学校・高等学校の実践

～１人ひとりの主体性に寄り添い、多様性を活かす学びの支援～

本年度最後の研修は、大阪府立水都国際中学校・高等学校の Jeremiah Sawma（ジェロマイヤ ソーマ）先生と藤田 勝如（まさゆき）先生をお招きし、研修を行いました。

水都国際は、国家戦略特区制度を活用した全国初の公設民営の中高一貫教育校であり、国際バカロレア(International Baccalaureate:IB)認定校です。IB とは、国際バカロレア機構が提供する国際的な教育プログラムであり、認定校共通のカリキュラムや、世界共通の国際バカロレア試験や資格の授与を行い、国際的に通用する大学入学資格を与えることが目的として設置されたプログラムです。日本の最先端の学校で実際にどのような授業が行われているのか、先生方はどのような思いで日々の授業を行われているのかを教えていただくことができました。

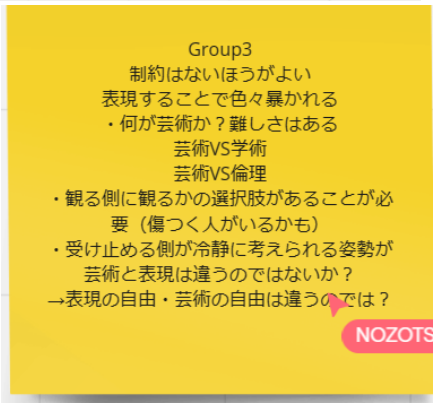
ESL における技術

ESL とは、English as a second language のことを指し、「第二言語としての英語」という意味です。水都国際中学校・高等学校では、国際バカロレアの認定校ということもあり、英語を母語としない人生徒に、英語を使用しながら行う授業があります。その授業において使用する技術を Sawma 先生から教えていただきました。

また、Sawma 先生から実際に生徒に対して行われている化学の授業（すべて英語）を行っていただきました。語彙の確認の行い方や理解度の確認の仕方はもちろん、ジェスチャーでは、Dissociate（解離する）という単語を使用する時に、対義語である associate（くっつく）も使いながら腕をくっつけたり、離したりする姿を見せていただき、体験して学ぶことができました。

① 語彙リストと練習（重要語彙の練習）
② テキスト/簡易テキスト
③ 理解度チェック
④ ジェスチャーとハンドシグナル
⑤ センテンスフレームとシグナルワード

TOK の問いから考える -miro を使って-



藤田先生は総合学習（探究学習）やビジュアルアーツをご担当しており、授業中の生徒の姿や、「幸福とは何か」という漠然とした問いに生徒たちが調査、分析、議論（深める）し、目に見える形で表現された発表物を見せていただきました。また、国際バカロレア教育のシステムや、その中におけるビジュアルアーツについてのご説明をいただきました。

その後、実際にバカロレア教育において大切にされている「TOK（Theory of Knowledge）：正解のない問いについて考える」の視点から生徒と同様に「芸術の制作や鑑賞は道徳的・倫理的な制約の対象となるか」という問いが藤田先生から投げられました。例えば、2011 年大阪でブロンズ像に赤いワンピースが着せられていたことや、路上芸術家バンクシーの作品についてが、教材として取り上げられました。

上記の話題について「miro」というオンラインホワイトボード のアプリを使用し、ネット内の付箋に自分の考えを書きこんでいきました。グループによって様々な意見が出て、まさに「答えのない問い」へ向かうことの難しさと楽しさを体験することができました。

― 参加者の声（一部抜粋） ―

・素晴らしい内容ありがとうございました！水都国際中高の取組みが、公立学校で広まっていったら、日本の教育はさらに豊かになり、笑顔でワクワクと学びに向かう子どもたちが増えると思います。私も、そんな未来に貢献する１人でありたいと思います。そのためにまずは、自分の今いる環境で、学んだことを実践していきます！

・ESL の技術については理解の仕方の多様性に対するアプローチとしても、とても参考になるものと感じました。ジェスチャーやハンドシグナルといった非言語コミュニケーションや理解度チェックとフォロー体制などについて、学校種を問わず取り入れられることだと思いました。

・IB Visual arts × TOK は、IB における美術は成果物ではなくプロセスと自己変容を評価することに感銘を受けました。一人ひとりが学びを通じて変化していくこと自体に価値を置く視点が重要と感じました。

― ― ― ― ― 次回（2024年度総会 記念講演） ― ― ― ― ―

2024年 5 月 18 日（土）17 時00分～18 時30分

「インクルーシブ教育推進に活用する法的知識、その現状と課題」

講師：坂田 仰（たかし）氏　日本女子大学 教職教育開発センター

来年度も一緒に学んでいきましょう！